

Zゲージ シンプルトランクレイアウト 制作ワークショップ

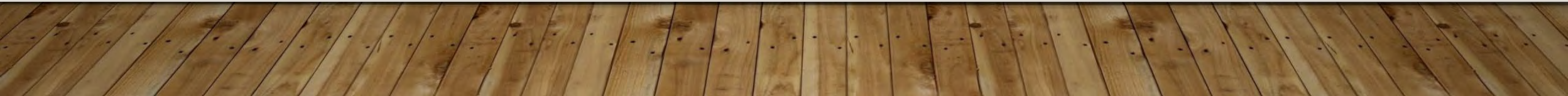
①準備作業

2022/2/12
Baden谷九
静山



本日の内容

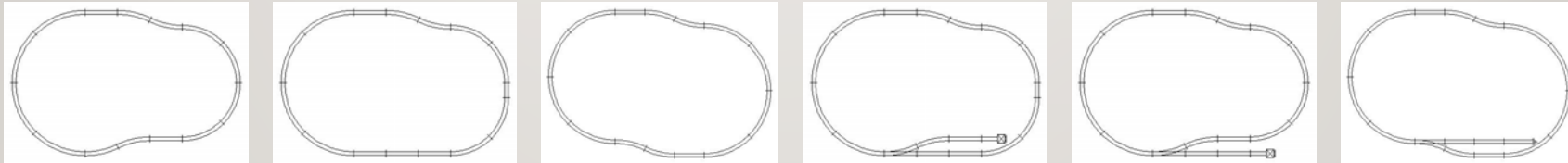
- レールと情景のプランを決める
- 材料と工具を揃える
- ケースとベースボードの準備
- レールを組み、型取りをする
- レールと地形、建物等の配置を決める



レールと情景のプランを決める

- レールプラン

ケース内寸**440mm**×**310mm**程度の場合のプラン例（ロクハン）
R120または**R95**の半周に、**R127-26**による**S**字と**55mm**直線レール



※メルクリンレール使用の場合はフレキシブルレール使用、ただし**R127**のポイントはメルクリンにはない

※**Z**ショーティーはいずれも走行可能。そのほか、**R120**はほとんどの車両は走行可能。**R95**はメルクリンの**BR89**など短い**3**軸動力車は可能、レールバスは可能、**2+2**のボギー台車の動力車は台車の首振り範囲によって異なる

レールと情景のプランを決める

- 情景

日本・ヨーロッパ・アメリカ、田舎・都会、建物、山・池・川、季節など

実際の情景写真を参考にすると良いが、どうしてもデフォルメしないと納まらないので、あくまでイメージとして

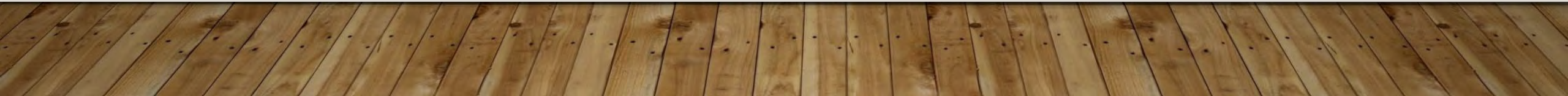
厳密には方角も決めるが、このサイズではこだわらなくて良いだろう

単調にならないように変化を付ける

オーバルをケースに平行にせず斜めにする

走行する列車が見え隠れするように

レールよりも高い箇所（山や高台）、低い箇所（池や川）を設ける



材料と工具を揃える

- ケース

仕切りなど外せること、開いた蓋が**90度**で止まること

- レールとコントローラー

レールプランに合わせて
ポイントがあればポイントスイッチが必要
(ロクハン**RC03**であれば内蔵)

※コントローラーを自作してベースボード内に納めることも可能だが、電子工作が必要で、今回のワークショップでは扱わない

- 踏切

日本と海外では異なることに注意



材料と工具を揃える

- ベース材料類

スタイロフォーム（30mm）、
スチレンボード（5mm）、段
ボール、ボール紙、模造紙、ト
レーシングペーパー、粘土、
アルミレンジパネル（岩肌作成に
使用）、洗濯ネットなどの網
（石畳や石積の作成に使用）

※粘土は乾燥時の収縮が少ないもの
が良い。あまり軽いものは避ける。
パジコプルミエがおすすめ



材料と工具を揃える

- ベース材料類

※段ボールは、片面を剥がして、畑の畝や階段に使用。目の細かなものを使う



材料と工具を揃える

- 接着剤類

TOMIXシーナリーボンド（発泡系素材を含めてほとんどの場合に）、ボンド**GI7**（強力に接着したい場合）、ファスナーテープ（コントローラーをケース内部に固定するなどに使用）、セロハンテープ、両面テープ（各種仮止めに使用）
※両面テープはスタイロフォームに対して使用する場合があるので、強力なものが良い



材料と工具を揃える

- 接着剤類

必須ではないが次のものも
木工ボンド（紙、木、バラスト）
タミヤクラフトボンド（細いノズルで細かな接着に便利）
スチのり（発泡系素材の接着に）
ボンドSUクリアー（GI7の色が気になる場合に）
瞬間接着剤（細いプラパーツが折れたときなど）



材料と工具を揃える

- 塗料類

ポポンデッタバーントアンバー
（土の地面の下地）、ポポンデッ
タ液状パテライトグレー（コン
クリートや舗装）、タミヤ情景テ
クスチャーペイント路面ダーク
グレー（アスファルト）、アクリ
ル絵の具（黒、白、緑、青、茶）、
ネイル用トップコート（水面）
※必須ではないが、タミヤ情景テク
スチャーペイントの草グリーンや土
ダークアース



材料と工具を揃える

- 塗料類

紙コップ（塗料を入れる）

平筆（いくつかのサイズ、できれば
ナイロンが抜け毛がなく使いやすい）

必要に応じて面相筆



材料と工具を揃える

- 草木類

カラーパウダー（グリーン二色以上、ブラウン）

テラプラント（クラスターフォーリッジ、グリーン二色）

ナイロン不織布たわし濃緑（生け垣に使用）

竹串（木の幹に）

※パウダーは単色でないものが何種類かあると変化を出しやすい



材料と工具を揃える

● 工具

発泡スチロールカッター（ペンタイプ）、紙やすり、はさみ、カッターナイフ（大、小）、直線定規（できれば50cm以上）、三角定規、カッティングマット（できればA3）、目打ち、シャープペンシルか鉛筆、油性ペン（細いもの）



材料と工具を揃える

• 工具

必須ではないが次のものも
ピンセット、デザインナイフ
（ペーパークラフトのストラクチャ
を組み立てる場合など）、ピラニア
ソー（小さな木材やプラパーツなど
の切断）、**NT**ドレッサー（平面の
ヤスリがけ）、ペンチ、ニッパー、
クランプか洗濯ばさみ（接着時
の固定）、コンパス（アーチの型取
りや間隔を取る）



材料と工具を揃える

- 工具

必須ではないが次のものも
ルーター（電動の回転ヤスリ、金属
のカットやバリ取りが必要な時）



ケースとベースボードの準備

- ケース

内部に仕切り板などがあれば取り除く、そのための留め具なども取り除く
蓋を下にして開いたときに後ろに倒れないように、木片を入れるなどして蝶番の開き具合を調整する



ケースとベースボードの準備

● ベースボード

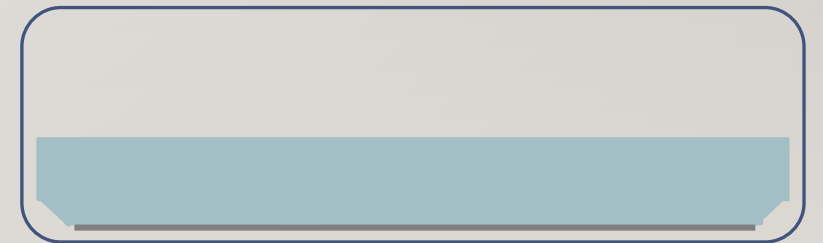
ケースの内寸を測る（蓋側と収納側で内張の緩衝材によって内寸が異なる場合は狭い方）

それに合わせて**30mm**のスタイロフォームをカット（角の丸みは、斜めにカットして対応）

ケースの底にも丸みがある場合はそれに合わせてカット（たぶん**1cm**程度）

底に合わせて厚紙をカット

※ケース蓋側の底に厚紙、その上にスタイロフォームを入れて、ケースの開閉を確認



レールを組み、型取りをする

- レールを組む

レールプラン通りにレールを組む

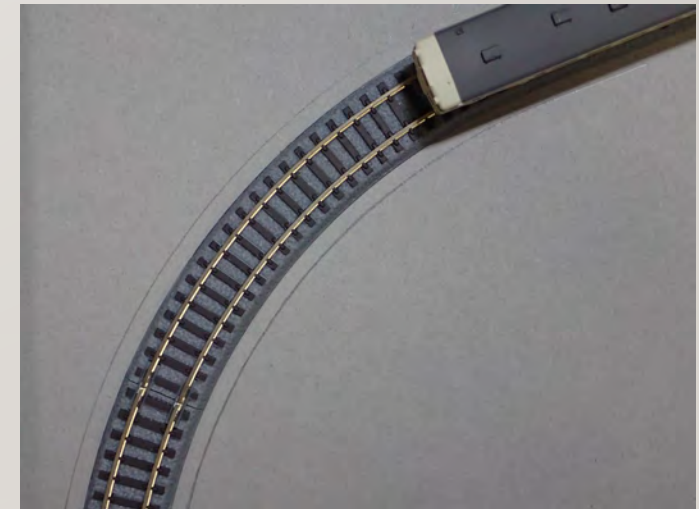
- 型取りをする

厚紙に組んだレールを置き、ずれないように仮止めする

走らせる車両をカーブに置いて外側と内側の車両限界を確認する（ロクハンのレールであれば、道床の外側**3mm**で良い）

厚紙にその線を引き、切り抜く

以後の作業でこの型紙を使用する（レールを置いて作業すると接着剤や塗料などで汚れるので）



レールと地形、建物等の配置を決める

- 型紙の準備

ベース上面と同じ大きさに模造紙をカット

- 配置を決める

その模造紙上にレール型紙を置き、位置を決めて、その型を取る

プラットフォーム、山、池、川（河川敷を作る場合はそれを含めて）、道路の配置を決めて境界線を引く

建物も仮置きして配置を決め、枠線を引く

※納得のいくまで模造紙のカットから繰り返す

※この模造紙を型紙とし、ベースボードをカットするが、その作業は次回

